

第3学年国語科学習指導案

日 時 平成18年6月12日(月) 第2校時

対 象 男7名 女9名 計16名

指導者 石 田 隆 浩

1 教材名 「知らせたいことを整理して書こう」学図3年上巻

2 教材について

(1) 学習指導要領との関連

【書くこと】

ア 相手や目的に応じて、適切に書くこと。

イ 書く必要がある事柄を収集したり選択したりすること。

エ 書こうとする事を中心を明確にしながら、段落と段落との続き方に注意して書くこと。

オ 文章の良いところを見つけたり、間違いなどを正したりすること。

【言語事項】

イ文字に関する事項

ア) 当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くようにする。

ウ表記に関する事項

イ) 句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な個所は行を改めて書くこと。

(2) 教材の内容

① 教材観

3年生最初の作文教材である。この時期の児童は行動範囲も広がり、また部活動など新しく始めた事も多い。また、徐々に書ける文章も長くなってきている。しかし、実際は、書きながら考えたり、頭に浮かんだ順に書いたりする傾向が強いので、順番が前後したり、内容が混在したりする文章がそのような中で、本教材では、「書きたいことをカード化→簡単な組み立てメモ→実際に文章を書く→推敲する」という流れで進められている。教科書の教材文を参考にしながら、組み立てを工夫して書くことに慣れさせていきたい。今年度は全校的に作文を家庭学習に出し、1週間のサイクルで書いてきている。そのため、最初の作文教材ではあるが、今までに「組み立てメモ」「書き出し」などについて若干の指導は行っていたので、家庭学習の課題作文とも関連させた教材として扱っていきたい。

② 指導観

この教材では、書きたい内容を時間的・内容的な順序に整理して書く事を中心に指導していきたい。また、書く事柄をカードにメモし、そのカードを並べ替えるこ

とによって、より組み立てを考えて作文を書くことを定着させたい。

また、実際に書くときには、低位の児童も書く活動に参加できるように、まとまりごとに指導しながら書かせていきたい。さらに3人の特に配慮の必要な子については、書き方を真似させるなどの方法を工夫しながら、まとまりごとに書くという意識を持たせたい。

また、相手に伝わるのかどうか分からない。また、推敲する力も足りない。わかりにくい表現をお互いに質問したり助言したりしながら、相手に伝えることを意識して書く態度を身に付けさせたい。

3 目標

- ・ 伝えたいことを選び、書こうとする事を整理して文章にすることができる。【書くこと】
- ・ 書いたことを読み返し、よりよい表現にしていこうとする態度を育てる。【関心・意欲・態度】

4 児童の実態

削除

5 校内研との関わり

研究主題

「伝え合う力」を育む国語科学習指導法の研究

－相手を意識して書く活動を取り入れた国語科学習指導法の研究－

研究目標

国語科の学習において、伝え合う力を育むためには、相手を意識した書く活動を工夫することが有効であることを実践的に明らかにする。

研究仮説

国語科の学習において、発達段階に応じた書く力を明確に指導者が意識し、対読者意識や表現方法の指導を工夫して授業の中で生かしたり、日記・作文などの家庭学習と連動させたりしながら、書く活動を日常化していくことで、思考力や表現力が培われ、伝え合う力が育つと考える。

(仮説1)

書く活動の時間を確保することより、思考力や表現力が高まり、伝え合う力を伸ばすと考ええる。

(仮説2)

学習内容を定着のために、指導段階に定着を図る時間を設定していくことで、国語力全般の向上が図れると考える。

(仮説3) 読書指導を充実させることにより、語彙量が増えるとともに思考力や表現力も高まり、伝え合う力が伸びていくと考える。

提案仮説

(仮説 1 について)

- ・書く時間を確保し、相手を意識させるためにペアやグループで質問や助言し合う時間をとる。

(仮説 2 について)

- ・書き方を工夫させるために、悪い例やよい例を示し、比較させることで、より確かに定着すると考える。

6 指導計画 (11 時間)

時	指導内容	目標	◇評価 ◆留意点
1	・みんなに知らせたいできごとについて説明し、簡単にメモさせる。	・知らせたいことを見つけ、シートに書くことができる。	◇知らせたいことを見つけ、シートに書くことができたか。 【書くこと】
2	・教材文を読み、書きたいことを簡単にメモする方法を理解させる。	・書きたいことをメモして組み立てを工夫する方法を理解する。	◇メモして組み立てを工夫する方法を理解できたか。 【書くこと】
3 ・ 4	・教材文「郵便受けのお客さん」を読み、組み立てメモと教材文を対応させ、題名・はじめ・中・終わりの書き方の工夫を理解させる。	・はじめ・中・終わりの組み立てに整理して書くことが大切であることを理解する。 ・それぞれのまとまりごとの書き方の工夫について理解する。	◇全体の組み立てを表にして考えることがよびことが分かったか。【書くこと】 ◇それぞれのまとまりごとの書き方が分かったか。【書くこと】
5	・知らせたいことを組み立て表にメモし、書く順番を工夫させる。	・知らせたいことを、組み立て表にメモしている。	◇知らせたい内容を思い出し、組み立て表を完成させることができたか。【書くこと】
6 本 時	・組み立て表を基に、はじめのまとまりを工夫して書かせる。	・組み立て表をもとにはじめの部分工夫して書く。	◇はじめのまとまりを工夫して書くことができたか。【書くこと】
7	・組み立て表を基に、中のまとまりを工夫して書かせる。	・組み立て表を基に、中の部分を工夫して書く。	◇中のまとまりを工夫して書くことができたか。【書くこと】
8	・組み立て表を基に、終わりのまとまりを工夫して書かせる。	・組み立て表を基に、中の部分を工夫して書く。	◇終わりのまとまりを工夫して書くことができたか。【書くこと】
9 10	・書いた作文を推敲し、清書させる。	・書いた作文を読み返し、推敲して清書する。	◇書いた作文を推敲し、清書することができたか。【書くこと】
11	・できた作品を紹介し合い、互いのよさを見つけさせる。	・できた作品を紹介し合い、互いのよさを見つける。	◇互いの作品のよさを見つけることができたか。【関心・意欲・態度】

7 本時の活動（6／11時）

(1) 本時の目標

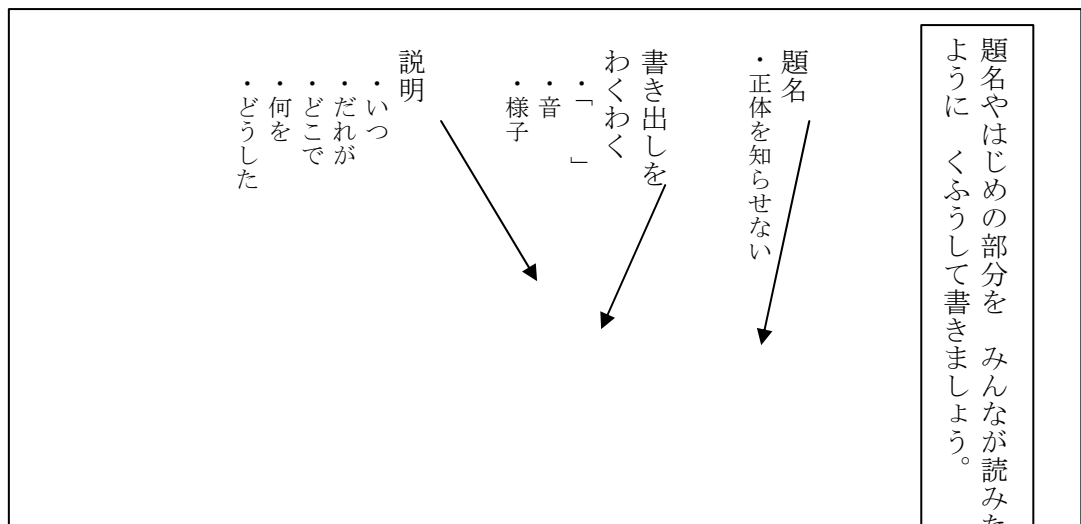
- ①組み立て表をもとに，はじめの部分や題名を，みんなが読みたくなるように工夫して書いている。【書くこと】
- ②書いた作品のよさをみつけたり，アドバイスすることができる。【関心・意欲・態度】

(2) 展開

段階	教師の発問と働きかけ ○発問 ○主発問	学習活動 ○予想される児童の反応	指導上の留意点㊟・評価㊠と方法
導入	1 前時の学習内容を想起させる。 ○前の時間は，書きたいことをメモし，組み立て表にはりました。自分のメモの順番を確かめましょう。 2 今日の学習内容を確認する。 ○組み立てメモをもとに，はじめのまとまりを書いてみましょう。 3 学習課題を提示する。	1 前時の学習内容を想起する ○順番を確かめて，必要があれば確かめる。 2 今日の学習内容を確認する。 3 学習課題を読む。	㊟自分の組み立て表を見直させる。
	題名やはじめのまとまりを みんなが読みたくなるように工夫して書きましょう。 4 悪い書き方の例を提示し，<u>工夫するポイント</u>を確認する。 ○どんな書き方をするとよいですか？	4 学習課題を読み，確認する。 ○ 題名はわくわくするように ○ 書き出しで，結果がわからないように ○ 説明の中に，だれが，いつ，何をしたことなのか，簡単に書く。	

展 開	5 実際に作文メモを基に初めのまとまりを書かせる。 ○工夫するポイントをもとに、はじめのまとまりを書きましょう。 6 書いた文章を隣の人と紹介しあう。 ○隣の人に紹介し、感想や質問・アドバイスをしましょう。 7 書き直させる。 ○赤ペンで書き直したり書き足したりしましょう。	5 実際に作文を書いてみる。 ○工夫するポイントをもとに、はじめのまとまりを書きましょう。 6 書いた文章を隣の人と紹介しあう。 ○隣の人に紹介し、感想や質問・アドバイスをする。 7 書き直す。 ○赤ペンで修正する。	㊟書けない児童には助言する。特に苦手な児童には具体的な書き方を示す。 ㊞他の人の良さや改善点を見つけ、感想やアドバイスを伝えることができたか。【関心・意欲・態度】 ㊟机間の巡視をし、修正への助言をする。よい参考例になる作品をさがしておく。
ま と め	8 何人かの作品を紹介し、学習のまとめる。 ○どんな書き方がよいと思いましたか。 9 習熟させる ○練習問題を工夫して書いてみましょう。 10 次時の予告をする。 ○今度は中の部分を工夫して書きましょう。	8 学習のまとめをする。 ○題名の～がわくわくする。 ○書き出しの～で、何があるのかとびっくりする。 ○説明で、いつ、どこで、何が、どうしたことか簡単に書いている。 9 練習問題をやってみる 10 次時の学習活動への意欲を持つ。	㊟作品のよい点を見つけることができたか。【関心・意欲・態度】 ㊟練習問題をやることができたか。 ※時間がなかったら省く。

(3) 板書計画



しじゅうからがゆうびん受けに
すを作ったこと

堤 まさたか

ぼくの家^{いえ}に、すを作っています。
びつくりしました。